

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530460

研究課題名（和文） 情報職業者のキャリア形成と「社会的能力の自己形成過程」の分析

研究課題名（英文） Analysis of the information industry workers' career development and "self formation for social capacity"

研究代表者

藤井 史朗 (Shirou Fujii)

静岡大学・情報学部・教授

研究者番号：00145971

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：SE、情報職業、生活史、キャリア、社会的能力

1. 研究計画の概要

ポスト構造主義の情報(現代)社会論を中心に、メディアとコミュニケーションの領域を再検討し、この知見の中での「主体」の問題を考察し、情報職業者への調査を介して、現代ホワイトカラーの社会的能力の形成過程についての整理を行う。

2. 研究の進捗状況

理論研究としては、平成22年度は最終年度に向けて①情報サービス業の近時の経営環境変化に関わる、世界的不況の現れ、主要自動車産業企業の動向、浜松における不況の現れとそれに対する商工会議所や市の対応方向などについて分析した。特に、②ホンダ二輪工場の熊本への業務移転の経過について、浜松製作所と熊本製作所、熊本県大津町へのインタビューによって追跡した。また、③浜松の中小企業の成長戦略について4社(自動車部品製造業、菓子製造業、飲食業など)にインタビューを行った。④浜松におけるリーマンショック以降の不況と工場移転などの中小製造業企業への影響や対応方向についての調査についても準備作業を行っている。さらに⑤2007年、2008年の静岡大学卒業のホワイトカラー調査の分析・整理を行った。この⑤の結果は、『フィールドリサーチ 2007・2008 報告書』(2011年4月発行予定)所収の、『静岡大学卒業生の生活史と職場生活に関する調査』の意義と基本的分析視点、「B社に勤務する静岡大学卒業生の生活史と職場生活に関する調査」結果、「製造業(関連)事業所従事の静岡大学卒業生の生活史に関する調査」結果、などとしてまとめた。そこでは、浜松において戦前戦後に生誕し、静岡大学(・工業短期大学)で学び、地元企業

に努め、高度経済成長期を技術者として生きてきた調査対象者のキャリア形成や日常の社会関係の性格を浮かび上がらせることができた。

最終年度の調査に向けて、情報サービス業の近時の動向についての資料検討及び関係機関への調査を遂行中である。特に主なフィールドとして川崎市を加えた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

製造業ホワイトカラーへの調査・分析は進めているが、情報職業者に絞った現段階的特性分析と理論的整理は未だ不十分である。

4. 今後の研究の推進方策

2011年度は、2009年度、2010年度のホワイトカラー調査結果をまとめるとともに、浜松の情報サービス業及び情報職業者のインタビュー調査を行い、理論的整理をしたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① 藤井史朗、(書評) 河西宏祐著『路面電車を守った労働組合 私鉄広電支部・小原保行と労働者群像』、日本労働社会学会年報、第20号、2009年12月、156～166頁、査読無

② 藤井史朗、社会調査に基づく実証研究動向と質的調査法の可能性、日本の科学者、Vol. 43、No. 12、2008年12月、pp. 16-21、査読有

〔図書〕（計1件）

- ① 藤井史朗、お茶の水書房、「浜松市における自治会の現状と外国人居住の動向」（小内透編著『在日ブラジル人の労働と生活』第7章 第2節）、2009年、189-196頁

〔その他〕

『フィールドリサーチ 2007・2008 報告書』（2011年4月発行予定）所収の、『静岡大学卒業生の生活史と職場生活に関する調査』の意義と基本的分析視点、「B社に勤務する静岡大学卒業生の生活史と職場生活に関する調査」の分析、「製造業（関連）事業所従事の静岡大学卒業生の生活史に関する調査」の分析を行いまとめた。